



ゲッコーパレード
本拠地公演

図書館や劇場から抜け出した
戯曲の生活、その上演。

戯曲の棲む家 vol.6

ハムレット

2017.3.31 Fri. - 4.10 Mon.

於・旧加藤家住宅

こんにちは。みなさま旧加藤家住宅へようこそ。ゲッコーパレードの演出担当、黒田です。
この「ハムレット」という演目は2016年8月に上演した戯曲の棲む家vol.3の再演です。「戯曲の棲む家」シリーズは2016年にはじまった、演劇の戯曲を劇場や本の中ではない「家」という場所に住まわせてみて、どのような振る舞いをするかを観察しようというプロジェクトです。
vol.3当時のパンフレットでは、私は観客の皆さんに家がいかにおかしな場所かを力説していました。たとえば、家というのは人に見られたくないことだってできる場所です。みなさんも自分の家では下着姿でボーッと過ごすことがあるでしょう。でも街中で同じことはやりません。旧加藤家住宅の「ハムレット」では、そこに住むひとりの「男」が自宅だからこそできる遊びに興じる様子をご覧にいます。彼には皆さんが見ていることはもちろん内緒です。
まもなく上演がはじまります。どうか事態の把握に躍起にならず、ゆっくりと家での戯曲の振る舞いを観察ください。

原作=W.シェイクスピア
引用訳=小田島雄志 松岡和子 木下順二
演出=黒田瑞仁
出演=渡辺恒 崎田ゆかり 河原舞
美術=柴田彩芳(現代美術家)
衣装=森弓夏(服飾デザイナー)
空間=渡辺瑞帆(青年団 演出部)

照明協力=磯野いるか 鈴木麻友
記録映像=絵空衣音
チラシデザイン=岸本昌也
チラシ写真・予告映像=瀬尾憲司
制作=岡田萌
制作補助=川口潮奈
後援=蕨市 蕨市教育委員会

ところで演劇というものは、紙に書かれたセリフはコピーできたとしても、上演自体を映像のようにダビングしたり、好きな時に再生することはできません。ですから再演という形は、以前の上演と似ているようだけど、同じではないということになります。じゃあ去年はどんなことを考えてこの作品を作ったかな。と思出すと、当時私は3本の映画の影響下を受けていました。ミシェル・ゴンドリー監督によるフランス映画『ムード・インディゴ』、香港のウォン・カーウアイ監督『恋する惑星』、そして日本の森田芳光監督『家族ゲーム』これは松田優作が主演です。どれも独特の雰囲気をつたえた名作です。それから私たちの作品は<寝たい>だの<死にたい>だのばかり言っているハムレットを、せめてポジティブな要素として<食べる>ことと出会わせてみようというアイデアから始まっているので、食を主題にすえた映画もいくつか観ましたが、どれからもあまり影響は受けなかったように思います。

それからたくさん「ハムレット」の映像や、映画を観ました。なかでも印象的だったのはインド映画『Haider』、舞台映像『ハゲレット』、デイヴィッド・テナント主演の『Hamlet』など。どれも原作を知らなくても楽

しめるように作られていて、大胆な切り口にも心躍りました。日本語訳も引用させていただいた3つをはじめ、研究本とあわせてたくさん世に出ています。そして舞台公演。ハムレットが執筆されてから400年あまり、何千何万回と上演されてきたうちの、ほんの幾つかを自分は生で観る機会に恵まれました。

ゲッコーパーレード版「ハムレット」に出てくる言葉はすべて戯曲『ハムレット』からの引用ですが、私たちは物語とは別の要素を戯曲から抜き出しています。それはもしかするとシェイクスピアによる戯曲そのものではなく、世界中の多くの人々の手によって形づくられてきた、文化としてのハムレットに影響されたイメージなのかもしれません。

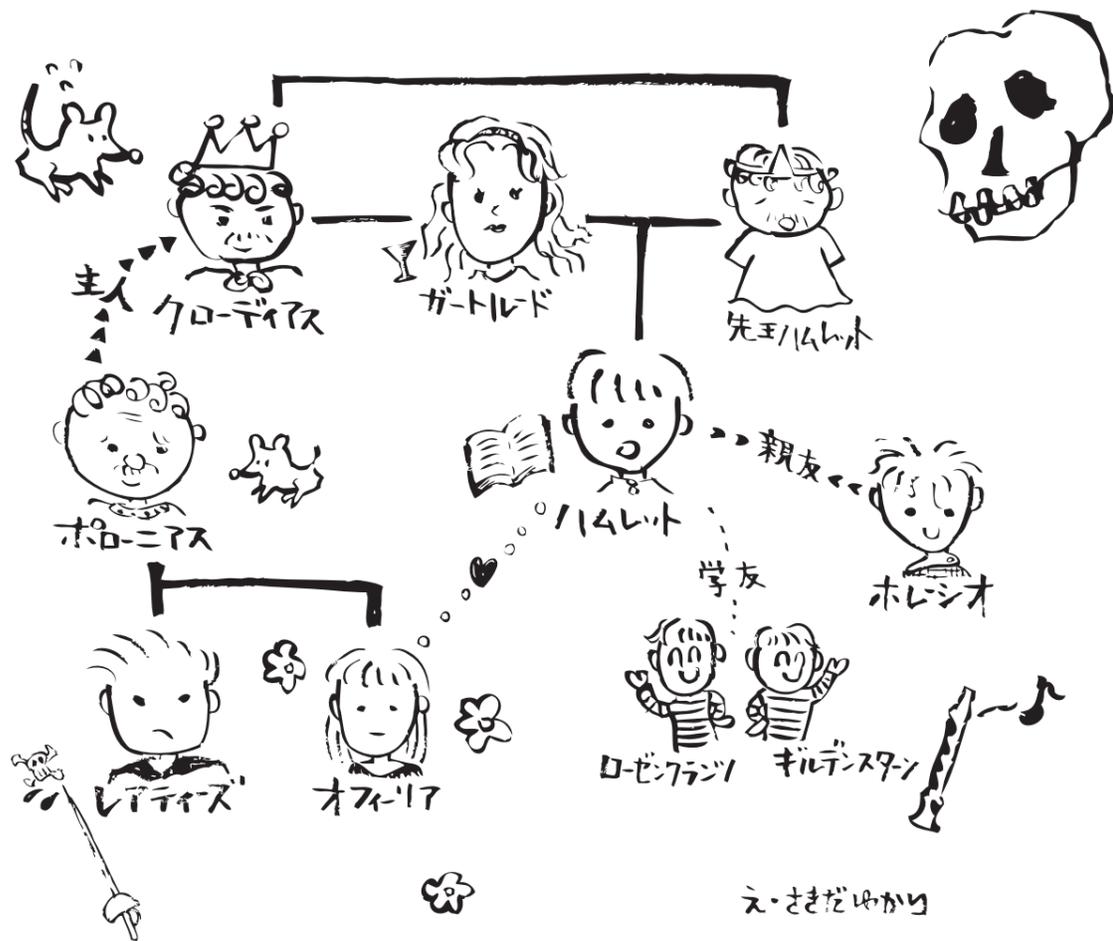
なんだか、話がとつぜん大きくなってしまいました。しかし背景のスケールがどんなに大きくても、この一軒家では天下の「ハムレット」にもほどほどに暮らしてもらおうと思った次第です。

引用戯曲＝
 シェイクスピア著 小田島雄志訳『ハムレット』白水社,1983
 シェイクスピア著 松岡和子訳『ハムレット』ちくま文庫,1996
 シェイクスピア著 木下順二訳『ハムレット』講談社文庫,1971



あらすじ・相関図

デンマーク王である父の死後2ヶ月と経たず、叔父が新王となり母は彼と再婚した。これに納得のいかない王子ハムレットのもとに父の亡霊が現れる。自分は弟に暗殺されたのだという。復讐を誓ったハムレットは悩みつつも、敵を欺くため狂気を装うなかで、恋人オフィーリアに当たり散らし、母をなじる。また叔父と間違ってオフィーリアの父親を殺したため彼女は狂い、自身は国外追放となる。帰国した彼を待っていたのは恋人の死と、激怒する彼女の兄。最後は決闘のさなか、母と叔父を道連れに自らも息絶える。



アーティストプロフィール

柴田彩芳 Shibata Ayaka

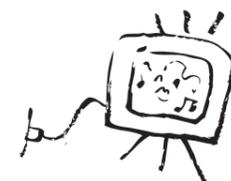
現代美術家。京都造形芸術大学大学院、油画専攻卒業。絵画における人の視覚の可能性をテーマにインターレーションや絵画作品を制作している。2014年 TOKYOWONDER SEEDS2014 に入賞。その後東京スパイラルギャラリー、京都ではThe TerminalKyotoで展示。現在は京都のアトリエにて制作。

森弓夏 Mori Yumika

服飾デザイナー。明治大学文学部演劇学専攻卒業。文化服装学院在学。オリジナルブランド「YUMIKA MORI」として服のデザイン、縫製、Fashionに関わる作品制作を行う。

渡辺瑞帆 Watanabe Mizuho

セノグラファー。早稲田大学院建築学専攻修了、同大学嘱託研究員。フジワラテッペイアーキテクトツラボ所属。青年団演出部。元贅沢貧乏。建築・舞台美術・プロダクト・インテリア・テキスタイル等、幅広く活動中。



終演後のお茶会

終演後、お客さんと俳優やスタッフが歓談できる場(お茶会)を用意しています。今回はその場にゲストをお呼びして、それぞれの専門分野の視点からハムレットや旧加藤家についてざっくばらんに話して頂ければと思います。参加費は無料です。



歓談ゲスト(各回終演後)

1日(土) 17:00

近藤 弘幸 Kondo Hiroyuki

東京学芸大学教育学部教授。上演台本の翻訳に、ウィリアム・シェイクスピア『リア王の悲劇』、エドワード・ボンド『戦争戯曲集』、サラ・ケイン『洗い清められ』、アラン・エイクボーン『スリッパ、誰の?』など。著書に、『今を生きるシェイクスピア―アダプテーションと文化理解からの入門』(共著、研究社)など。

2日(日) 13:00

蜂巢 もも Hachisu Momo

1989年京都生まれ。演出家。青年団演出部所属。京都造形芸術大学舞台芸術学科入学後、身体は歴史、記憶を包容するのではと考え、演劇・ダンスを模索してきた。2013年からより多くの劇作家に出会うため上京し、青年団に所属。イオネスコ『授業』能『弱法師』カゲヤマ气象台『水』など、古典から現代の作家まで、広く上演を行う。

7日(金) 20:00

佐々木 透 Sasaki Toru

リクウズルーム代表。ク・ナウカシアターカンパニーで演出家・宮城聡のもと俳優として活動。退団後、執筆活動に取り組む。「日本の劇」戯曲賞2013最優秀賞受賞、第5回泉鏡花記念金沢戯曲大賞受賞。文学への深い知識、鋭い感性と美意識を持ち、「戯曲構造」と「物語の可能性」を探る事をテーマに創作活動を行う。

9日(土) 17:00

岡本 清 Okamoto Kiyoshi(蕨市民会館 館長)

井田 誠 Ida Makoto(蕨市立文化ホールくるる)

【施設紹介】蕨市民会館は1974年開館。蕨市中央公民館との複合施設。市民会館に隣接して蕨城址公園がある。蕨市立文化ホールくるるは2010年開館。一階が旭町公民館、二階が民間保育園、三階が文化ホールとなった公共公益施設。どちらの施設も市民の文化向上、活動の為の大きな支えとなっている。



ゲッコーパレード

岡田萌 Okada Megumi

1988年7月11日生まれ。埼玉県新座市出身。高校卒業後劇団俳小に入団し俳優、制作補助などを務める。ゲッコーパレードには旗揚げ公演から参加、以後全公演の制作を務める。団体のしんがり担当。趣味は家事全般(特に料理)と映画鑑賞。手近な目標はテレ玉デビュー。最近気になることは引越すと古代中国史。

河原舞 Kawahara Mai

1988年8月22日生まれ。大阪府吹田市出身。俳優。京都造形芸術大学舞台芸術学科卒。2016年の戯曲の棲む家シリーズからゲッコーパレードのメンバーとして本格的に始動。身長149cm。食べることが大好きで、アイスとラーメンが好き。年に200本の映画を見ることを目標にTSUTAYAに通い詰めている。最近気になることはミニマリストとタランティーノ。

崎田ゆかり Sakida Yukari

1988年9月12日生まれ。石川県金沢市出身。中学校の文化祭の劇でお芝居に興味を持ち、同志社大学の第三劇場、座・高円寺の劇場創造アカデミーを経てゲッコーパレードを立ち上げる。中学生のとき一夏をかけて曼荼羅を描く。好きなものはパンと珈琲。女優ではなく俳優でありたい。チケットやDMの絵を描いたり、小道具を作ったりもする。最近気になるのはパリジェンヌと銀杏BOYZ。

渡辺恒 Watanabe Koh

1988年2月11日、東京都上石神井生まれ、以降埼玉と都内を行き来しながら生きてきた。主な移動手段は自転車だったが一昨年電柱に衝突してから運転を自粛。蕨から15分ほどの埼玉大橋からの景色は絶景。10年程前からけん玉にはまるが基本技の一つが未だできず挫折を繰り返しながら当団体ゲッコーパレードにて役者をしている。今は夜な夜なスプーンを曲げようとして曲がらない。

黒田瑞仁 Kuroda Mizuhito

1988年5月20日生。舞台演出家、翻訳家。ゲッコーパレード代表。少年期をオーストラリアで過ごす。早稲田大学大学院建築学専攻修了。集団の全演目の演出を行うが、劇作はしない。ふだんは旧加藤家住宅の管理人として二階の一室で一人寂しく暮らしている。カレーには大根を入れる。最近気になるものは平熱。

今後の活動予定

新作一人芝居 2017年6月上旬

演出=黒田瑞仁 出演=崎田ゆかり 服装=YUMIKA MORI
於・BAR Piggy Back (東京都 高田馬場)

滞在新作公演 2017年6月下旬

演出=黒田瑞仁 出演=渡辺恒、河原舞
於・インターナショナルゴルフリゾート京セラ (鹿児島県)

滞在新作公演 2017年8月下旬

演出=黒田瑞仁 出演=渡辺恒、河原舞、崎田ゆかりほか
於・Buoy / 北千住アートセンター (東京都 北千住)

文化財企画(仮)第一弾 2017年10月

『リンドバークたちの飛行』

作=ベルトルト・ブレヒト 訳=岩淵達治

演出=黒田瑞仁、渡辺瑞帆ほか

出演=河原舞、崎田ゆかり、渡辺恒

企画=ゲッコーパレード、本橋仁(建築史家)、渡辺瑞帆
於・都内登録文化財(東京都)

本拠地公演 戯曲の棲む家 vol.7 2017年冬

『新作公演』 演出=黒田瑞仁

出演=崎田ゆかり、河原舞、渡辺恒ほか

於・旧加藤家住宅(埼玉県蕨市)

ほか多数!

【外部出演情報】

渡辺恒 2017年5月12日(金)~14日(日)

『タイトル未定』 作・演出=一宮周平(パンチェッタ) 於・阿佐ヶ谷アートスペースプロット

プチ・パトロンチケット収益利用報告

プチ・パトロンチケット収益を、以下の用途に利用させて頂きました。

- 2016年5月31日 音響機材(アナログミキサー)購入費として、11,664円
- 2016年8月24日 照明協力スタッフ人件費(一部)として、20,000円
- 2016年12月21日 オルガン運搬費として、21,698円

観劇の際に皆様からお支払いいただくチケット代金は、作品を創造・上演するための会場費・人件費・舞台費・文芸費・製作費として充てさせていただいております。皆様の観客としての参加が演劇(表現芸術)を支えています。この場を借りて御礼申し上げます。

ゲッコーパレードは、「人の集まりがパレードのように活動や表現を形成していく」という信条から名付けました。私たちの元にたくさんの方が集まってくださり、今回『ハムレット』という形のパレードができあがりました。パレードの参加して下さった方、サポートしていただいた方、観に来てくださった方に感謝申し上げます。

パレード参加者

市松 磯野いるか 井田誠 榎本弘文 岡田萌 岡本清 加藤宏之 川口潮奈 河原舞 岸本昌也
黒田瑞仁 近藤弘幸 崎田ゆかり 佐々木透 柴田彩芳 島猛 鈴木啓文 鈴木麻友 瀬尾憲司
鶴見勇人 蜂巣もも 福地ひかり 森弓夏 渡辺恒 渡辺瑞帆 観客のみなさま

インターネット上の舞台芸術フェスティバル！ 現在開催中！



こりっち
CoRich舞台芸術まつり! 2017 春



最終審査 10 作品に選出! (応募総数 102 作品中)

ゲッコーパレード「ハムレット」は
「CoRich舞台芸術まつり! 2017春」において、
計 102 作品の中から最終審査対象の 10 作品に選ばれました。

グランプリには再演資金として 100 万円、演技賞には 5 万円を贈呈!

こちらから「観たい!」「観てきた!」クチコミをして応援してください! ▶

URL http://stage.corich.jp/stage_main/65269



公演情報ページ

こりっち
CoRich舞台芸術まつり!

とは...

クチコミ数
30 万件
2017/2月

演劇・ミュージカル等の
クチコミ&チケット予約

こりっち (株) 主催のインターネット上の舞台芸術フェスティバルです。
2007 年から開始し、今年で 10 回目を迎えました。3 月～ 5 月に上演される日本全国の
小劇場公演が対象で、参加費用は一切不要! 最終審査では審査員が全国どこへでも、
作品を観に伺います。▼ 詳しくは当サイトをチェック!

こりっち

CoRich舞台芸術!

<http://stage.corich.jp>

こりっち 検索

